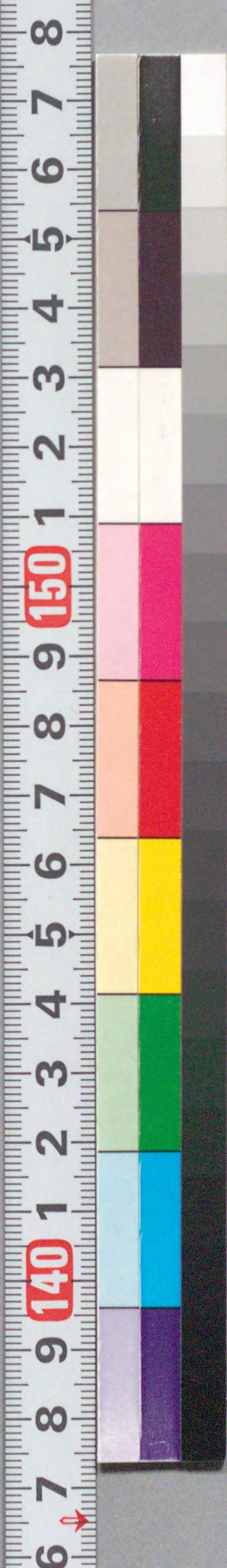




富貴花
自在
北
江戸

208
795



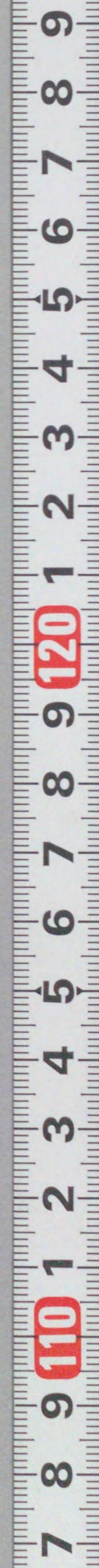
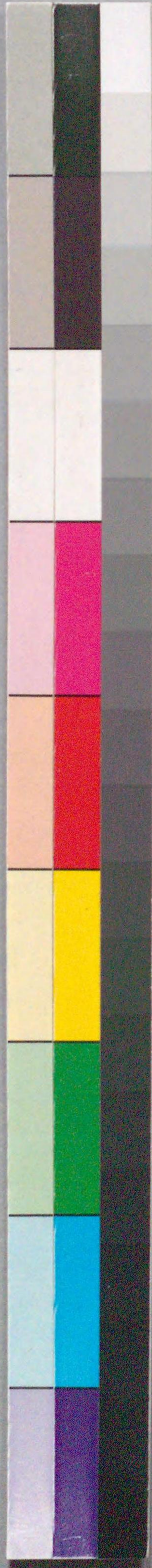
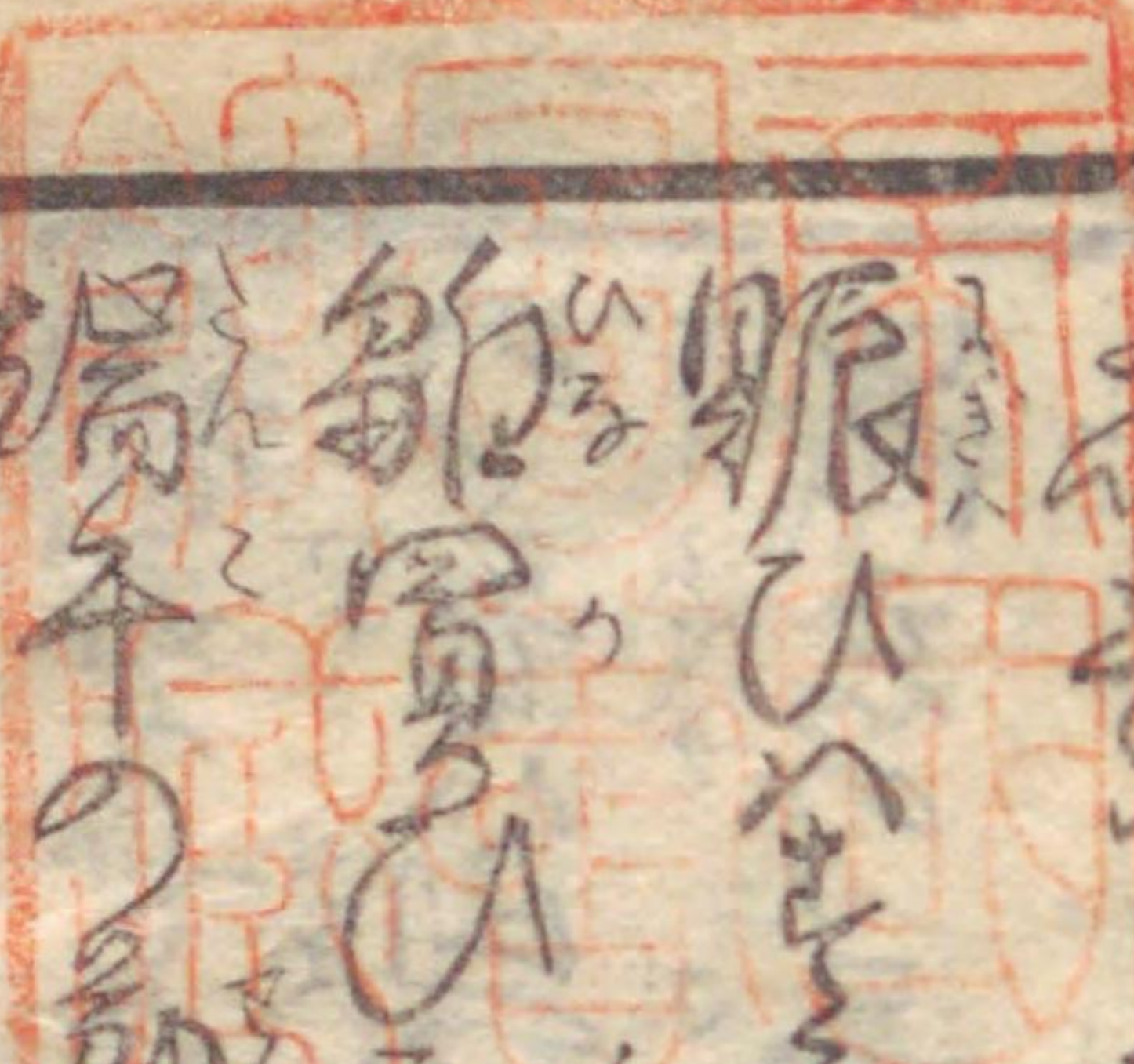
国立国会図書館 花の御江戸 2巻 208-795

ガラス使用

富貴ふき
自在じざい
以化いけ
純法じゆんぽう
江戸えど



序
 言より文し花の江戸元日あるはま
 ち去て心す可なり能くこのまは初年
 賑ひをすすみ近十軒店へ箱入娘の
 節言ひ初製のは切より誌あるまは
 端年の節から近生の箱の末は坊主より
 原の向を春のよの並打一列千金の舟
 手向の蛇籠は社の方の禮け如し





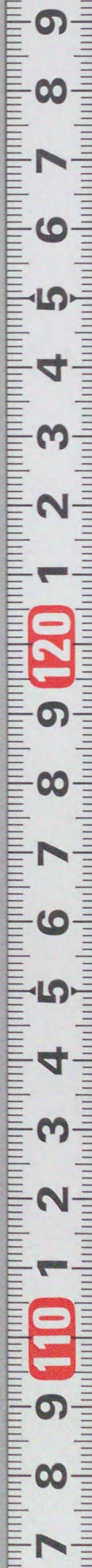
7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9

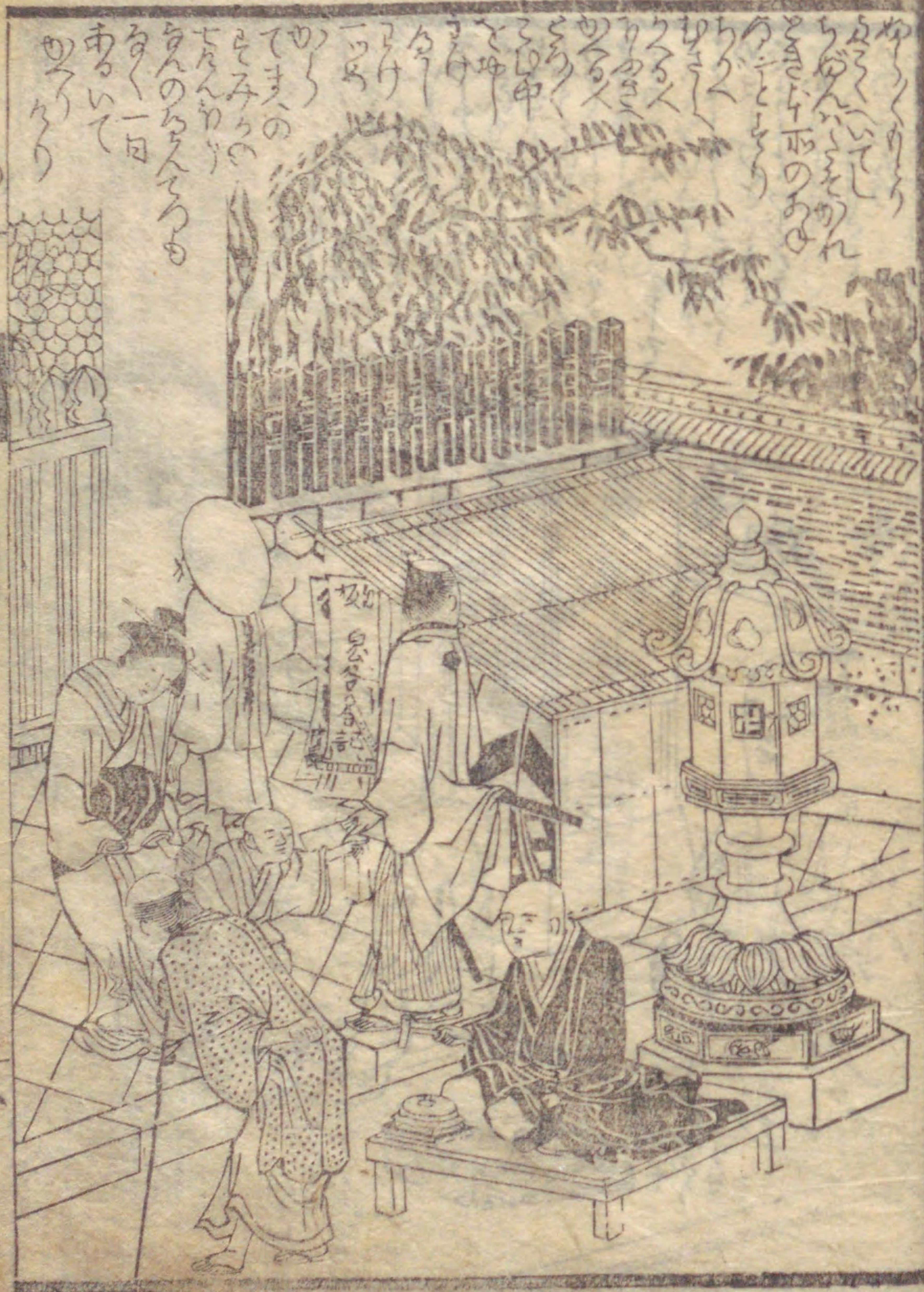


7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9

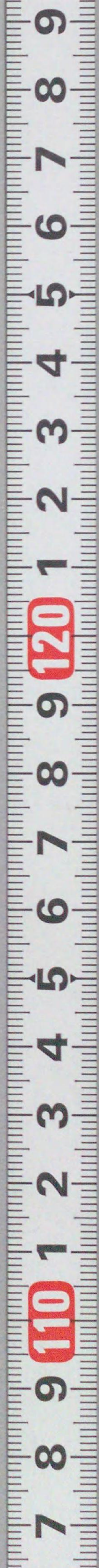
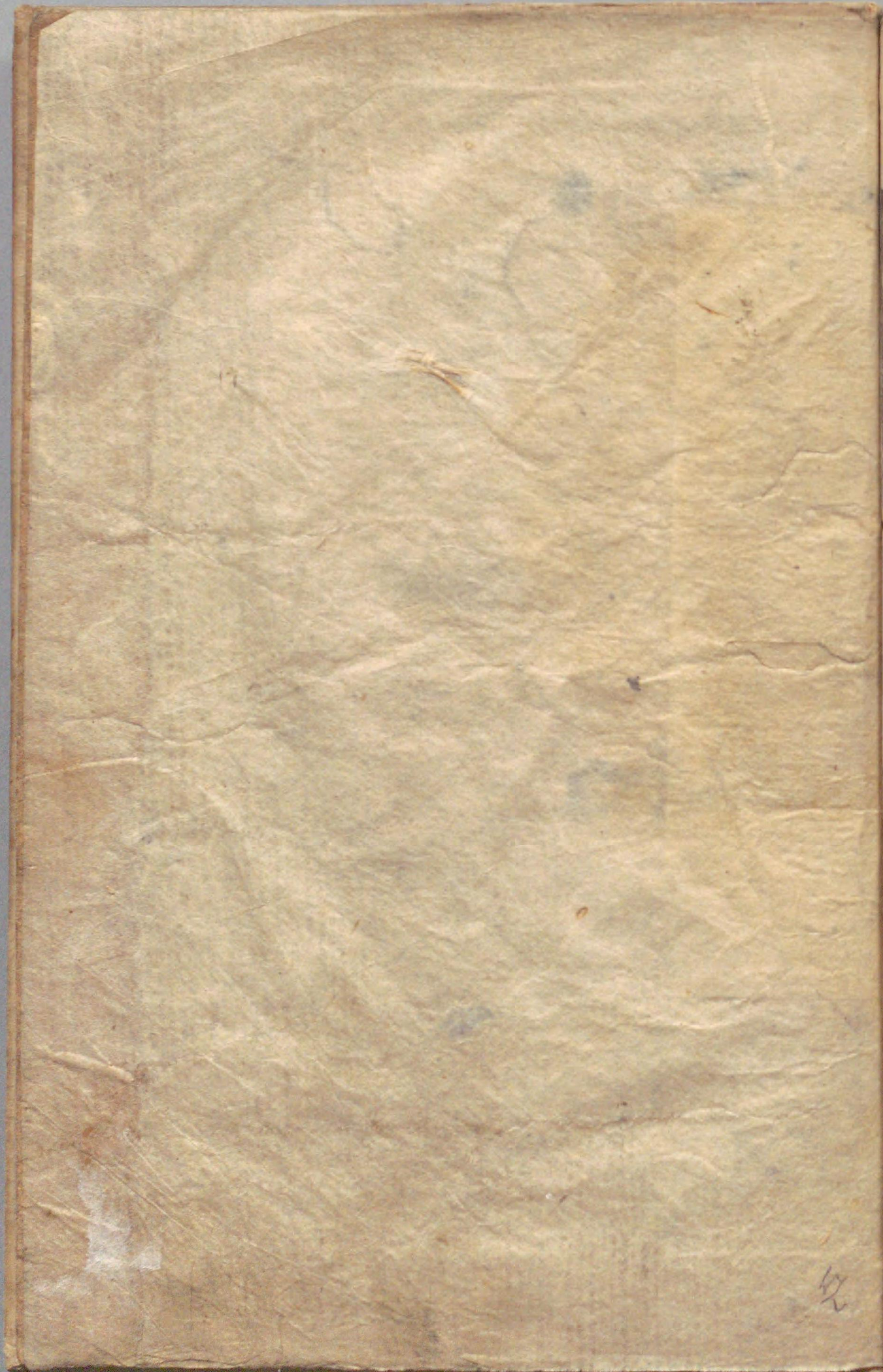


7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9

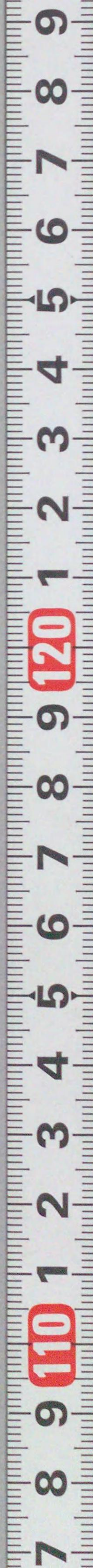


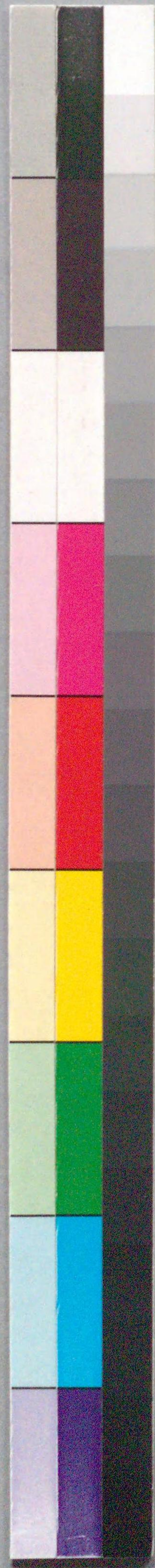


7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



208
795





国立国会図書館 花の御江戸 2巻 208-795

ガラス使用